112. 収 穫 近 く

撮影：昭和30年10月

二百十日、二百二十日の厄日も事なく過ぎて、たんぼの稲も稔実期に入りました。この年の豊年を約束されたように、コボレビエを抜く彼女の顔には、健康で明るい喜びがあふれるばかりです。

このごろは、農家の娘さんはもちろんのこと、お嫁さんも田畑へ出て農作業をする姿を見掛けなくなりましたが、このごろの農作業はほとんどが機械化されているので、あまり人手を必要としないのでしょう。経営も兼業農家が多くなり、若い人たちは勤め人が多くなったのも原因の一つでしょう。

かすりの着物にとんぼ笠、あのころの姿が目に焼きついています。

113. ひのきの伐採

撮影：昭和30年11月

裾野市の山林は、国有地を除けばそのほとんどが人工造林地です。しかし、所有地の規模は小さく、山林経営者といわれる人たちは各地区ともに少数に限られています。しかし農家には割地があったので、1 *ha* 以下ぐらいの山林は所有しているのです。人工造林の樹種はほとんどが杉、桧（ひのき）で通常は40年以上を経なければ伐採しないのですが、利用状況により30年ぐらいでも伐採されたものです。

材は皮をはいで屋根をふく材料によく使ったもので杉皮屋根といい、私も戦後引き揚げて来たときは杉皮屋根の家を建てたものです。

114. 輸出用の竹ステッキ材料

撮影：昭和29年12月

裾野地方の竹工業の始まりは歴史が古く、明治41年に始まったと伝えられています。

竹工業といっても真竹やモーソー竹を使ったものではなく笹竹やスズ竹と言われる竹で、竹コウリ、パイスケ、キセルなどが作られていたようです。

竹コウリやパイスケは戦後に至り姿を消し、キセルもキザミタバコが少なくなるにつれてその姿を消しました。

福島竹工業では竹ステッキを作り、アメリカへ輸出していました。その材料の竹は福島県白河方面から買い入れていたと言われています。材料の竹も、加工した竹製品も貨車にて裾野駅で扱われていたのです。

115. 郷土の政治家をしのんで

撮影：昭和33年１月

写真右の建物は、郷土が生んだ政治家の故遠藤三郎代議士が沼津千本浜に所有していた「洗心荘」です。昭和33年正月に帰郷するとの知らせがあり、洗心荘に集合して年頭のあいさつをした時の記念写真です。色々と政治の話を聞きましたが、この時の話では「今度の組閣には入閣できそうだ。おそらく間違いはないと思う」と言っておられました。あれは、２月中旬だったと思います。建設大臣として入閣されたという知らせを受けたものです。

その年の夏お国入りして、西小学校の校庭で祝賀会が催されました。

116. 郵便屋さん

撮影：昭和32年２月

制服、制帽、地下足袋に巻き脚半、肩にカバンを背負い、さっそうと歩いてきます。懐かしい姿の郵便集配人です。愛称は郵便屋さんと呼んでいました。私たちが子どものころの郵便屋さんは、みんなこのような姿で歩いていたのです。自転車が普及してからはみな自転車に乗って回ったのですが、十里木方面では坂道が多く、しかも悪い道でしたから、下りは早いけれど上りは大変で自転車がかえって荷物になったらしいのです。さっさと歩いた方が速いんだよ、と言っていました。バイクは別ですね。

117. 御神木との決別

撮影：昭和30年３月

富沢の産土神をまつる愛鷹神社には、大木の杉が一際大きくそびえていました。何年を経ているのかわかりませんが、神社が建立されたのが明暦４年とありますから、その時に植えられたものでしょう。

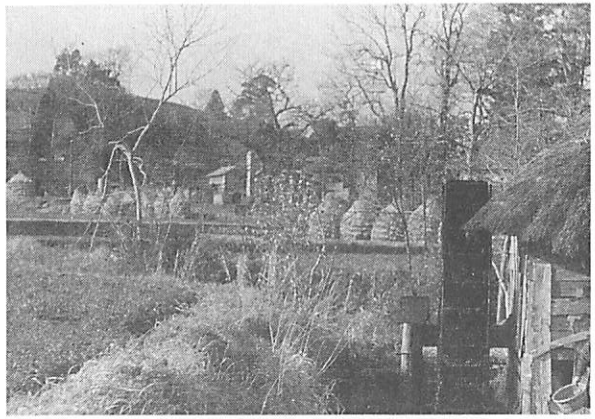
この大杉が腐朽して、いつ倒れるかわからない状態となり身命にもおよぶこととなるとの意見から、衆議一決して伐採することとなり、関係方面の承認を得、払下げ業者も決まりました。

御神木大杉伐採のこの朝は、氏子総出で決別の式典が挙行されました。

人びとそれぞれの数多い思い出を語り合いながら……思えば、昭和30年の出来事でした。写真の氏子たちも、その半数が既に故人となっています。

118. 水車小屋のある風景

撮影：昭和29年４月



勢いよく水の流れ落ちる音がする、小屋の中からはコットン、コットン杵の音がしています。

陽光が輝いてきました。早春、田舎の風景です。今はもうこの地方でも水車を見かけることはできません。

観光地では、観光用水車を見ることはありますが、本物の水車の情緒はわいてこないですね。

このような水車小屋が部落に１～２か所あって、農家共同所有で順番に利用して米つき（精米）、粉ひき（製粉）の仕事一切を引き受けていたのがこの水車でした。

時間は長くかかったけれど、この水車時代は貧乏を忘れさせてくれたような思い出があったものです。

119. 乙女ごころ

撮影：昭和31年４月

山の雪も日増しに溶け、いろりに山のように木炭をくべた寒い冬も去り、やわらかな陽光を受けた山裾に、霞が棚引き春を告げています。

この山や草原も、もうすぐ若草が燃え上がることでしょう。

娘さんかな？かすりのもんぺ作業衣に姉さんかむり。でも、隠せないのが乙女ごころ。高くそびえる火の見やぐらからは見えない胸の炎を内に秘めて、可憐に咲く富士桜のように飾りけのない姿こそ、美しく目にしみ入るような、そんなひとときの眺めでした。

120. 田植えの思い出

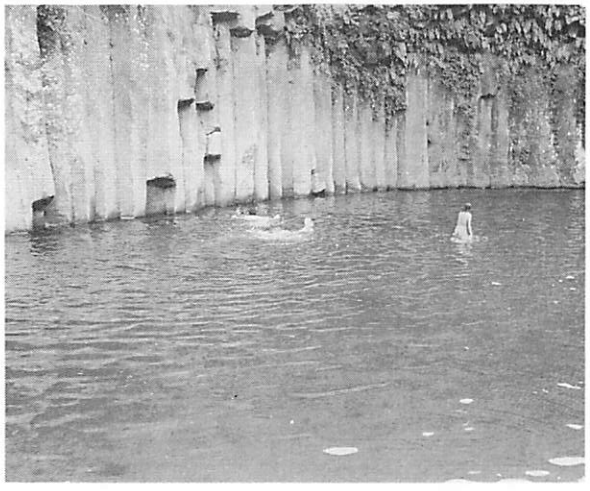
撮影：昭和31年６月

６月ともなると、やはり田植えを思い出します。私が子どものころの田植えは大変な肉体労働であったけれど、農家の年間行事であり、お祭りでもあったのです。

私がはじめて田植えの手伝いをしたのは、小学校４年生の時でした。その頃は小学校も“農休み”が10日ほどあって、農繁期の手伝いをするための休みでしたので、私たちにもできる作業の“縄張り”をやったものです。６年生のころには馬の鼻取りです。もちろん裸足だったので、麦の切株を踏んだときは足の指の間にささり、たまらなく痛いのです。脛から指の先まで傷だらけになって田植えをやったことは忘れられない思い出です。

121. 屏風岩の景観

撮影：昭和31年７月



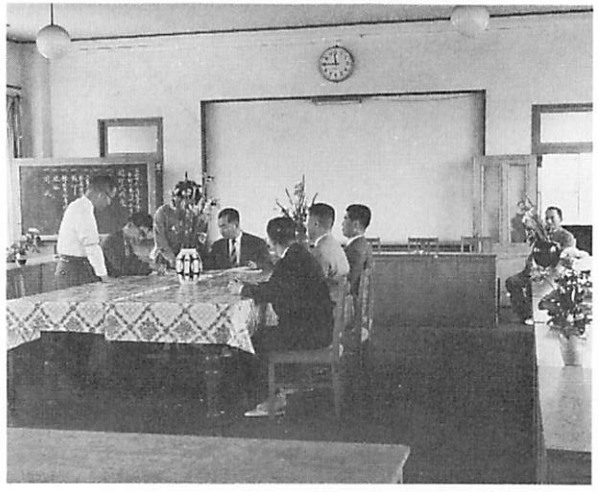
五竜の滝の下で黄瀬川と合流する支流佐野川の上流には、300mにわたって溶岩が浸食され奇形を見せている渓谷があります。これが、景ケ島、屏風岩と名づけられている所です。

景ケ島は、中央に西行法師が手植えしたといわれる松の木や、コケむした石仏や石塔に囲まれた依京寺があり場所もすぐわかりますが、屏風岩はここに行く公道がないため、上の道路からでは所在がわかりません。このような関係からここの自然は10年１日のごとく変わったところは見られないようですがいかがでしょうか。

市民の皆さんの中にも屏風岩のある場所を知らない方もかなり多いのではないでしょうか。

122. 三菱アルミとの調印式

撮影：昭和35年８月



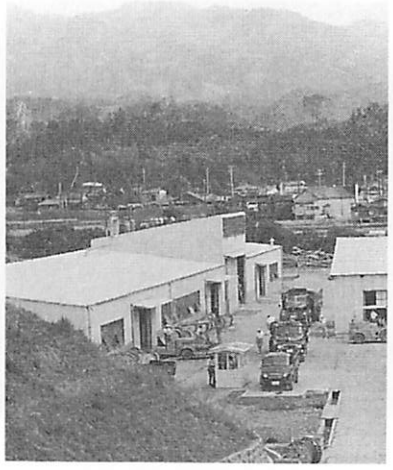
いまはすでに故人となられた小林秀也氏が裾野町長に就任されたのは昭和35年１月10日でした。その当時の裾野はまだ山村で産業も農業が主体でした。戦後15年、他産業の振興に伴い農業経営にもかげりが見えはじめてきた当時です。

小林町長は、工業立町を提唱して議会の賛同を経て工場誘致条例を制定して工場進出に努力を傾注したのです。

もちろん工場が立地するについては、公害のない工場が条件でした。この写真は、誘致条例に基づいて三菱アルミニウム㈱との調印式です。このように当初から工場公害の出ないように努力したのです。

123. 矢崎電線裾野工場の竣工

撮影：昭和36年９月



昭和36年９月、矢崎電線裾野工場が設立されました。昭和36年というと、大相撲の柏戸、大鵬がそろって横綱になった年です。昭和32年、富岡村、須山村が合併して裾野町となり、中駿５か村が一丸となったものの、農業中心の町だったので、農業の振興に力を入れました。農業構造改善事業の指定を受けて農地の基盤整備事業として畑の富士マサを除去するため、県農業機械化公社の買い求めた大型機械で富士マサ抜きを実施していました。しかし、昭和35年工業立町をめざし、工場誘致条例をつくり積極的な工業振興を図りました。矢崎電線は工場立地第１号で、昭和36年９月裾野工場が竣工しました。

124. 深良村が裾野町に合併当時の町議会議員

撮影：昭和31年10月

市広報、昭和60年10月15日号に掲載した「裾野市の基礎を作った人々」を紹介しましたが、それは昭和32年９月１日に富岡村、須山村が合併して中駿大同団結が成立した第１回目の議会後の記念写真でした。今回、紹介するのは昭和31年９月30日深良村が裾野町に合併したときの町議会議員の記念写真です。

既に半数以上の方々が故人となられているようです。裾野町議会第１代議長は渡辺義夫氏、第２代中西嘉一氏、第３代市野昇氏、第４代鈴木格氏で、このときの議長は第４代鈴木格氏でした。写真の第１列中央に位置している方です。

125. 須山浅間神社

撮影：昭和33年11月

浅間神社の奥の院は、富士山頂にある富士山浅間神社で、富士山登山道の出発点はいずれも浅間神社だと聞いています。

須山浅間神社は、須山登山道の出発地点ですが、富士裾野の演習場が出来たことにより、登山道が演習場の中に入ってしまったので、閉鎖されていたものです。

富士山周遊道路「スカイライン」が出来、日本ランドの専用道路がスカイラインに接続したため、須山地区住民の要望により須山登山道が復活して、広く登山者の利用を呼びかけています。

須山浅間神社の杉は、実に立派な巨木です。また、鳥居の形も珍しいものです。

126. 竹細工との思い出

撮影：昭和34年12月

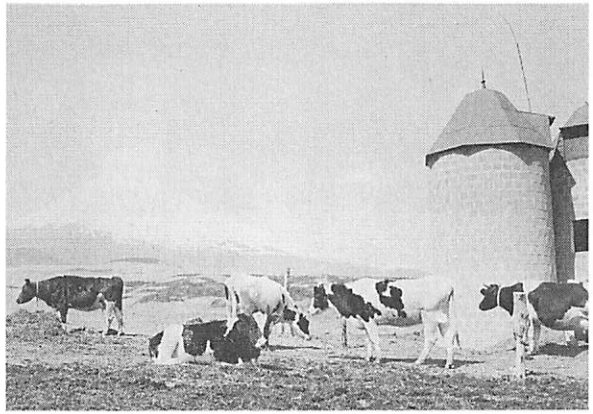
これは懐かしいですね。私たちは日常生活に使ってきた物ばかりです。

竹ぼうき、熊手（こまんざらとも言いました）、市場かご、しょいかご、ざる大・中・小、せいろ、しゃもじ、ごみ取り、くずかご、竹箕、メジロかご、うどんすくい、落葉かごなど、今はほとんどの物が見られなくなってしまいました。学校から帰ると木の葉かごを背負って田んぼへ馬の草を刈りに行くのが日課の一つでした。

洗ったいもを２斗ぐらい背負いかご里に入れて母が背負い、私は乳飲児の妹をおんぶして、三島の町まで歩いて行き、戸ごとに売り歩いたものです。昼までかかっても売り切れなかったり、思ったより早く売り切れる時もあったりして、帰りにだんごを買ってもらい食べながら帰るのがうれしかったものです。懐かしく思い出されます。

127. 元旦の富士山

撮影：昭和27年１月



平和日本をめざして、焦土の中から立ち上がり、頑張り抜いて45年、経済大国日本のレッテルが張られるまでに至りました。しかし、この発展の過程には各界、各分野で大変な努力研究がなされたことでしょう。押し寄せる高度成長の中にあって、我ら老人はあぜんとするばかりです。こうした中で心を慰めてくれるものがあります。四季折々の変化を伴いながら悠久に変わることのない大きな自然の景観、裾野が誇る裾野の富士山です。

この写真は、39年前の元旦に撮影した景観です。年の始めにふさわしく万物を包容する姿は今も変わりません。

128. 故人政治家を偲ぶ

撮影：昭和35年２月

今は故人の小林秀也さんは、裾野町長として昭和35年１月10日から昭和43年１月９日まで２期８年、多難な裾野町政を担当して市の基盤を築かれました。

昭和51年１月10日、岩崎亀氏（故人）の後を継いで市長に就任、昭和53年１月９日病気のため退任するまでの市政を担当されました。

小林さんはどちらかといえば、豪放磊落（らいらく）というタイプの方でしたが、内面はにかむところもありました。

この消防の制服を着用したときは、子どものようにはにかんでいた姿が目に浮かびます。町長就任の１か月後のことでしたから……。

129. 鈴原橋の竣工

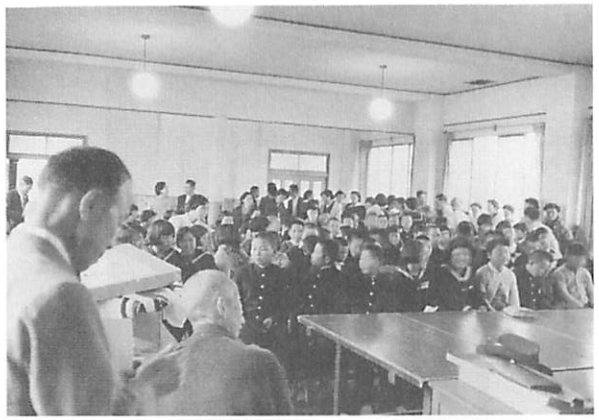
撮影：昭和34年３月

裾野市茶畑の箱根山麓を流れる入田川の流域は、当時農耕地が多く、このため入田川には多くの橋が架けられてあり、多くの方に利用されていました。その中の一つ鈴原橋が流失しましたが、たぶんこの橋の流失は前年の狩野川台風の折の流失ではなかったかと思いますが、どうだったのでしょう。

とにかく、入田川は箱根外輪山西斜面に降った雨が直に、流入するため護岸の決壊や橋の流失、農地に対する被害など大雨の都度、続失したものです。この鈴原橋も昭和34年３月に復旧竣工して、関係住民を喜ばせました。今は、開発が進み木橋などはなくなっていることでしょう。

130. 子ども会結成準備会

撮影：昭和34年４月



昭和32年、合併により裾野町が誕生して１年半、町民会館、公民館が建設されました。この年、子ども会を結成する動きが始まりました。県の指導により小学生を対象に、各市や町で子ども会結成の準備に入ったのです。

この子ども会を作る目的は、福祉事業の一環として少年福祉の立場から、心身の健全育成と非行防止が大きな柱でしたので、行政上は福祉事務所または福祉関係課が担当窓口になりました。

裾野町では、各地区ごとに説明会を行い、世話人（父兄）及び子ども代表者が参集して準備会を重ね、昭和35年裾野町子ども会連合会が結成されました。

131. 修業の道程だろうか

撮影：昭和29年５月

竜沢寺（三島市沢地）といえば、佛門の修業道場で一般には近寄り難いところでしたが、知人の紹介を得てお願いをしたところ、心よく承諾していただきました。それは桃園山定輪寺にある「宗祇法師の墓」に墓参りをして、農場山周辺を散策してもらうことでした。役僧ばかり７名、なお上僧が１名の計８名、「このようなことは初めてだ」と言われました。

宗祇法師の墓参り（法師の旧墓所）を済ませて、茶園の西側斜面を歩きましたが、道路でない土手を嫌な顔も見せず歩いてくれました。さすが修養の道に徹しているのだと頭の下がる思いでした。

132. 郷土の偉大な政治家

撮影：昭和34年６月

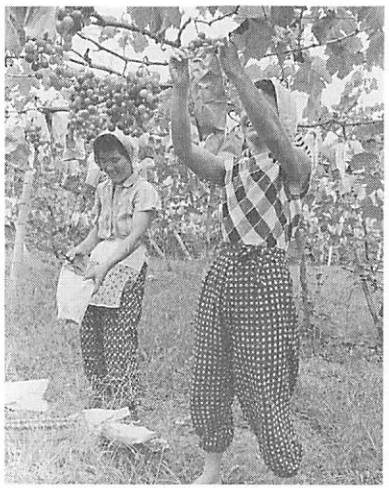
10年ひと昔というように、10年の歳月は長いのに、６期24年間戦後の混乱した県政を県議会議員として、昭和22年４月１日から昭和46年３月31日までの長い間活躍し、県東部にその人ありとうたわれた政治家（岩崎亀氏）です。

また、続いて昭和47年１月10日から昭和51年１月９日までの１期４年間裾野市長として、初代遠藤佐市郎氏のあとを受け２代目市長として、誕生したばかりの裾野市を発展著しい現在の裾野市に導く基礎をつくった偉大な政治家です。

今は故人となられましたが、31年前は写真でみるようにこんなに若々しかったのですね。

133. 巨峰ぶどうの昨今

撮影：昭和29年７月



巨峰ぶどうといえば露地ぶどうの王といわれ、岡山県方面がはじめの産地でした。最近では山梨県甲府地方をはじめ、ぶどうの産地といわれるところでは、かならずといっていいほど巨峰ぶどうを栽培していますが、静岡県で生まれたことを、産地の人たちもあまり知らないようです。

巨峰は、田方郡中伊豆町上白岩の大井上農場において育成作出されましたが、なぜか県下での栽培は少なかったのです。

裾野では、千福、御宿の篤農家が栽培して、評判は良かったのですが、非常に多くの労力を必要としたため、年々栽培者が減少して、現在栽培しているのは１農場だけではないでしょうか。今は非常に評判が良く、ゴルフ場などで土産物に間に合わないほどだそうです。

134. 黒富士によせて

撮影：昭和30年８月

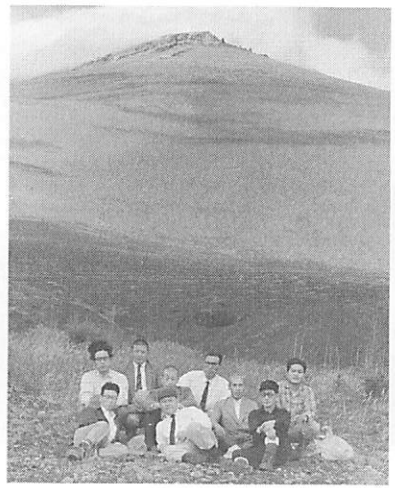
悠久変わらぬ麗峰富士山の姿、しかし、点景は時代に応じて変化していきます。

この富士の姿は黒富士、私たちは富士山の麓に住んでいるから見える時には自由に撮影できますが、遠方から富士山の写真を写しにくる人たちはなかなかその偉容を見せてもらえないといいます。ベテランは、台風の過ぎた翌日は富士山を写す絶好の日だといいます。

この日は、前日小さな台風が過ぎた翌日の夕方でした。旧東中学校のグラウンド、日中は暑いので夕刻を待って、近づいた運動会の練習中です。現在から30年以前の何かがうかがえるでしょうか。

135. 旧須山登山道を歩いた思い出

撮影：昭和34年９月



裾野町議会の経済委員と経済課職員で、旧須山口登山道を歩いてみようということになりました。幸い委員の中に、富士山のことなら何でもわかる渡辺徳逸先生がおられたので、先生の案内で実行しました。

コースは十里木、水が塚、幕岩。写真は幕岩の上方、宝永山の下、植生限界の周辺で休憩しているときのものです。宝永山の頂きに古富士の頭が見えています。

そのあと、双子山の下を通り、行者河原に出て、これを横切り第３尺口へ。ここから更に尾根を越えて、御殿庭に至り、須山登山道は、御殿場登山道と合流します。

136. 宗祇法師の歌碑

撮影：昭和34年10月

室町時代中期の連歌師「宗祇」は、旅の途中箱根において死亡したと言われています。

宗祇と桃園山定輪寺との交誼（こうぎ）は深かったので、なきがらは定輪寺に葬るよう申し残したと言われ、弟子たちがなきがらをかついで定輪寺まで運んで葬ったと言われています。

定輪寺も古くは現在地より西側の山ふところにあったので、宗祇の墓もその場所にありましたが、東名高速道路の建設にあたり現在の定輪寺境内に移転されました。

旧墓地の東側に小さな堤があり、写真の歌碑はその堤のほとりに立てられており、しだれ桜の老木が植えられていました。

この歌碑も定輪寺境内に移されました。

137. 沢庵大根収穫のころ

撮影：昭和32年11月

戦後12年、このころの農業はまだまだ生産物の不足しがちな時代でした。従って、なにを作ってもよく売れました。

今は、スーパーやショッピングセンターに行けばどんな漬け物でも売っていますが、昔は漬け物の加工品など売ってなかったので、農家以外の家でも自家製でした。ことにたくあんは、年に１回で年間の必要量を漬けるものですから、農家では大忙しでした。畑に水と４斗樽を持ちこみ、掘り取った大根を洗い、束ねて干し竿に掛けるのです。西風が吹く寒い季節なので、手はヒビ割れがして大変でした。暮れ、正月にかけてお得意様に納められました。

138. 柿の木の思い出

撮影：昭和40年12月

下和田方面の畑には、以前は柿の木が数多く見られました。渋柿で干柿用だったので、真っ赤に色付くまで木に鈴成りで、バックに富士山を配して、写真のよい被写体でした。ことにカラー写真には雪をいただいた富士山と、赤い柿の実のコントラストがよく映えます。

美女と柿の木では異色ですが、都会に出ている娘が、暮れ正月の休みに帰ってきたので、庭の柿の木でちょっと記念写真。

子どものころ、お正月15日の朝早く起きて、赤飯を柿の木に付け、カツノ木で『柿の木柿の木千百俵なるかなんないか』１本１本たたいて歩いたことを思い出します。

139. 子どもの元旦

撮影：昭和33年１月

子どもの遊びも、最近はテレビゲームなど先進技術の頭脳的な遊具が出回っています。老人など目をみはるようなゲームを楽しんでいます。

昭和30・40年代ごろは、衣食住に追われて子どものおもちゃまでにはまだ手が届かなかったのですが、子どもたちはそれなりに遊びの方法を工夫しては楽しんでいたものです。正月といえば男の子は凧あげ、女の子はマリつきや羽根つきと伝統的な遊びが主流のようでした。このごろは、塾通いの勉強、勉強で子どもたちが外で遊んでいる姿を見ることが少なくなったような気がします。

140. 旧庁舎屋上からの景観

撮影：昭和32年２月

戦後12年、昭和32年といえば、富岡村、須山村が裾野町へ合併して、中駿の大同団結が成った年、裾野町章を制定した年です。裾野町とはなりましたが、富士山の麓の農村地帯ですね。三島、長泉地先には、東レ工場の進出が決まった年ですが、裾野の工業立町はまだ４、５年後のことです。

旧裾野庁舎の屋上から見た景観、右方の建物が現在の県立裾野高等学校、田んぼの中に住宅がマバラに見えます。稲むらの群があちらこちらに見えるのが懐かしいですね。

今はこの稲むらを見ることはできなくなりました。時代の移り変わりです。

141. 愛鷹橋の架け替え前

撮影：昭和31年３月

台風による大雨、集中豪雨による河川の増水により流失した橋や、流失はしなかったが一部流失や危険にさらされて通行に支障を生じた橋は、裾野地域内にも過去にたくさんありました。

愛鷹橋も度重なる黄瀬川の増水により流失の一歩前までに至ったのです。

町、水窪区民が一丸となっての陳情や、地元選出代議士の運動などで、国の補助による架け替え工事が承認されたのです。この承認を得るためには、当時、水窪区民の並々ならぬ努力が続けられたのです。

この写真は、架け替え工事のため橋桁をはずした姿です。現在の橋の前の橋のことです。